

よい豚のもとをたどればよい種豚



疾病予防・管理できていますか？

国産純粋種豚改良協議会だより

第7号 2018.11.6 発行

平成 30 年度 東日本地区種豚登録講習会 開催!!

(平成 30 年 10 月 15 日・16 日 千葉県富里市 ラディソンホテル成田)

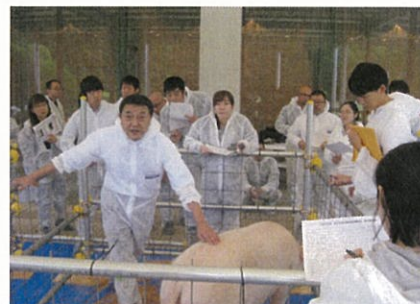
平成 30 年 10 月 15 日、千葉県富里市ラディソンホテル成田にて、東日本地区種豚登録講習会が開催されました。開催 1 ヶ月前に岐阜県内において国内 26 年ぶりとなる豚コレラが発生いたしました。発生により開催中止の検討もいたしましたが、講習会への参加希望者の声も多かった為、条件付きでの開催をする事が出来ました。(条件：発生養豚場 1 件である事と岐阜県が移動制限を解除したことから、参加者は地元に戻った際に細心の注意をする事等) 疾病問題で参加を自粛する方も多くなか、今回の講習会に 54 名の方が参加しました。今回の参加者は生産者(試験研究機関を含む) 26 名、養豚関係者 28 名の出席でした。また、参加者の内 31 名が登録員新規受講者として参加しました。



座学講習の様子



懇親会で御挨拶を頂いた堀江氏



生体実習の様子

講習会 1 日目、ラディソンホテル成田の会場にて座学講習を実施し、①開会、②特別講演 1、③特別講演 2、④審査講習、⑤テスト及び解説の順で進行了ました。①開会の挨拶では主催者代表である日本養豚協会専務理事小磯より「昭和 23 年に種畜法が制定され、養豚協会の前進である種豚登録協会が種豚登録事業を開始して 70 年を迎えました。畜産業界にとっては種や血統の維持が重要であると本講習会の重要性を強調され、本講習会で登録の基本、翌日の生体実習で体型選抜による種豚の選び方を学び、参加者との目合わせで活発な意見交換して頂きたい」と述べました。また、本講習会の実施にあたり、多大なご支援をいただいた富里市の生産者(有)堀江ファームの堀江社長よりご挨拶を賜りました。堀江社長は「種豚登録との付き合いは長く、現在も中ヨークを飼育し登録をしています。血統管理による生産をする事で、消費者に本物の豚肉をお届けすることができ、現在都内の高級レストランで使用してもらっています。本日は懇親会で中ヨークのモモハムも出ますので、講習会から懇親会まで有意義に過ごして頂きたい」と述べました。②では、東北大学大学院教授である鈴木先生に「育種価を活用した民間種豚場における繁殖能力の改良」と題し、海外の繁殖能力、育種改良の説明と基本原理、育種価を活用した民間種豚場の改良経過等についての講義をして頂きました。③では、農研機構 畜産研究部門の上級研究員石井先生に「豚におけるゲノム情報を用いた種畜選抜、研究について」と題し、SNP 情報、ゲノミック選抜法の原理や研究、責任遺伝子、遺伝的能力評価等について講義をして頂きました。④の審査講習では「国内の豚の登録事業・豚改良の基礎」「実際の登録・証明事業の概要」「豚に体型審査」について、事務局の海老原・神長・湯浅の順に審査講評を行いました。講義終了後にテスト及びテスト解説を行い、習熟状況の確認を行いました。

1 日目の講習終了後、同ホテル内の別会場にて懇親会を行いました。地元富里市の相川市長にご列席頂き、心強い御挨拶も頂戴しました。ナイスポークチバ推進協議会会長の岩岡氏、富里養豚部会長（JPPA 副会長）の塩澤氏からも御挨拶等を頂戴し、参加者同士の情報交換や交流が活発に行われ、盛大な懇親会となりました。また、国産純粋種豚改良協議会監事の桑原氏も駆けつけて頂き、養豚経営上の衛生の問題もあって関係者が集まる機会を作ることは難しくなっているが、是非今後もこういう集まりを活発に行って行きたいという締め御挨拶を頂戴しました。

講習会 2 日目、同ホテルのテラスを利用し生体審査実習を行いました。生体審査実習には、千葉県畜産総合研究センターの御協力により、ランドレース♀、大ヨークシャー♂、ヨークシャー♀の 3 頭を出品頂きました。実習では、各品種ごとに審査基準の説明と、実際に生体を観察しながら、審査基準と比較して良い点と惜しまれる点を評価し、実習参加者にも意見等を聞き、目合わせとしても非常によい意見交換ができたと思います。

また、審査後に、生体で超音波スキャナー機（㈱707ティインターナショナル）や背脂肪厚測定機（富士平工業㈱）のデモンストレーションを行いました。

最後に、本講習会開催にあたり多大なご尽力を頂いた、本協議会会員でもある、株式会社堀江ファームの堀江様、公益社団法人 千葉県畜産協会様、JA 富里様、千葉県畜産総合センター様、ラディソンホテル成田様、富里市に感謝申し上げます。



L 種のエルちゃん



W 種のダブル君



Y 種のサクラフブキさん



横からショットの Y 種の
サクラフブキさん

平成 30 年度 西日本地区の種豚登録講習会は鹿児島県にて 11 月 28 日・29 日に開催することになっております。開催要領が届いていない方やお問い合わせは事務局の湯浅(ゆあさ)まで御連絡下さい。28 日の卓上講習では、協議会の学識経験者として参加して頂いております、東北大学大学院の鈴木教授と会員である独立行政法人 家畜改良センター伊野氏の講演も予定しております。29 日の生体審査実習ではパークシャー種 2 系統とデュロック種が出品予定です。

国産純粋種豚改良協議会の現在の会員数は、生産者会員が 24 名、団体及び試験研究機関会員が当協会含め 11 名です。オブザーバー会員は 8 名となっております。正会員への変更手続き、新規入会をお待ちしています!!

中国でのアフリカ豚コレラ拡散及び 岐阜県での 26 年ぶりの豚コレラ 発生に伴う国内養豚農場での防疫強化を！！

ASF は非常に厄介な病気で、国内への侵入は全力を挙げて阻止する
必要があります。 また、豚コレラの拡散防止のため衛生対策を徹底しましょう

8 月 3 日の中国遼寧省瀋陽市での ASF の第 1 例目発生報告に続き、11 月 6 日時点で 39 例目の発生が報告されています。既に ASF ウイルスは中国国内で広く拡散されていると推測します。今後、複数の省に発生が拡大する可能性は高く制御は困難を極めることが予想されますが、それらの詳細がどこまで報告されるかは不明です。こうした状況のなか、中国のいたるところに ASF ウイルスは存在すると考え、国内養豚農場では防疫レベルを最高レベルに引き上げ、防疫強化をすぐに実施し国内への侵入を全力で阻止しましょう。

また、岐阜県で 26 年ぶりに発生した豚コレラについても養豚経営の存続にも関わる疾病です。これ以上拡散しないよう農場の衛生対策を今一度確認いただき侵入防止に努めましょう。

国産純粋種豚改良協議会 会員・オブザーバー会員 紹介

まだ未掲載の会員・オブザーバー会員の方、どんどんお送りください!!

- 1.会員名 有限会社 TOPICS
- 2.代表者名 桑原 一人
- 3.農場所在地 静岡県富士宮市根原 272-3

4.連絡先(事務所所在地など)

事務所所在地:静岡県富士宮市北山 5247-34

電話:0544-29-0555

FAX:0544-29-0567

E-mail:ai-center@fujinojo.jp



- 5.農場規模 日本の主要品種の他、希少品種も生産。GGP 生産 母豚 300 頭(育成舎)



6. 繁殖品種

LL♀	WW♀	DD♀	BB♀	YY♀	民豚	MG	その他	合計
80 ↓	50	80	30	35	5	2		育成舎 300
♀30	30	100	20	20				200
♂200	100		100	100				500

7. 販売可能頭数など 年間の純粋種豚 700 頭。 全国区販売(北海道～沖縄)



第 2 回 国産純粋種豚改良協議会 銘柄豚認定委員会開催のお知らせ

12 月 20 日に第 2 回 国産純粋種豚改良協議会 銘柄豚認定委員会を開催いたします。

取り組むことが決まった本案件について、こういった基準で、どんな特徴を持たせ、どのようなターゲットに向けて豚肉を生産していくか?など会員・オブザーバーの皆様からの御提案などもお待ちしております!!是非、事務局まで御提案よろしくお願いいたします。



事務局からのお知らせ

「国産純粋種豚改良協議会」は
平成 28 年 3 月 31 日、オールジャパンでの種豚改良を
目指して発足しました。 只今、会員絶賛募集中です!!

★平成 30 年度 種豚導入補助事業 ご案内

事務局である一般社団法人 日本養豚協会では平成 30 年度も種豚導入補助事業の事業実施主体となりました。国産純粋種豚の能力底上げが目標になった事業です。平成 29 年度も同様の事業があり、会員及びオブザーバーの方で事業参加されて、積極的に改良のための導入を行って頂きました。本事業は単年度事業ですが、平成 26 年度から続いている事業で、生産者間血縁構築にも有効に活用されています。せっかくの補助事業です。協議会の目標達成の為に是非、有効活用しましょう。お問い合わせは事務局の湯浅までお願いします。

★協議会内部での種豚交流について

改良のスピードアップのための、ひとつの指標となる遺伝的能力評価精度を向上を図るためには、協議会員間での血縁構築が重要となってきます。是非、会員間で種豚交流を実施しましょう。御連絡いただければ会員にお知らせいたしますので事務局までお願いします。

★会員、絶賛募集中!!

より多くの種豚生産者に参加していただくことで、国産純粋種豚改良協議会の活動が盛り上がり、かつ、データがたくさん集まり、改良のスピードアップも狙えます。是非、入会をよろしくお願いいたします。協議会についてのお問い合わせもお待ちしております。

★産肉検定について

産肉形質改良のための素材となるデータ測定についても、積極的に実施をお願いしたいところですが測定機器が無いなどのお悩みについて、協議会一丸となって取り組んで行きたいと思えます。是非、事務局へお問い合わせ下さい。全体で対策を検討したいと思います。

★国産純粋種豚改良協議会だより について

普段なかなか集まることのできない、会員及びオブザーバーの交流の場としても是非ご活用ください。掲載希望記事や掲載希望コーナーなどの御提案をお待ちしています。事務局までどんどんお寄せ下さい。また、改良に関する質問なども受け付けております。

(例:会員及びオブザーバーの紹介コーナー、会員及びオブザーバーに関するトピックコーナーなど)

事務局のつぶやき・・・

最近、疲れた心を回復させる効果があるとしても注目されているろうそくの灯り。専門店に行くと、良い香りのするものや、素敵なデザインのものなど実にさまざまな種類が取り扱われています。

その灯りは決して力みなぎるものでもなければ、照度が高いものでもなく、時間が経てば消えてしまうし、火災の心配もあります。その点、電気やガスによる灯りは煌々と力強く、長時間継続して照らし、かつスイッチひとつで取り扱いも簡単、ろうそくに比べると火災の心配も少ないです。

しかし、震災や事故があると途端に機能しなくなるのは電気やガスです。また、ろうそくの灯りが人の息で一瞬のうちに消えてしまうように、電気やガスもスイッチや回線の断線で使えなくなってしまう。

種豚も同じではないでしょうか。国産純粋種豚も海外で生産されているハイブリッド豚と言われる種類も、それぞれ種豚の持つ特徴は違えど種が消える瞬間はおなじ条件でやってきます。種の保存は種豚の種類に限らず、非常に大切な大きな課題だと改めて痛感している今日この頃です。

国産純粋種豚改良協議会 事務局 一般社団法人 日本養豚協会 担当:小磯・湯浅・神長
〒1510053 東京都渋谷区代々木 2-27-15 高栄ビル 2 階
電話:03-3370-5473 FAX:03-3370-7937 E-Mail:n.yuasa@pig-pins.com